

## 平成29年度 第1回宝塚市総合教育会議

- 1 日時 平成29年（2017年）7月27日（木）16：25～17：50
- 2 場所 宝塚市役所3階 特別会議室
- 3 出席者 （構成員）中川市長、須貝教育長、井上教育委員、川名教育委員、  
篠部教育委員、森教育委員  
  
（事務局）教育委員会事務局理事、企画経営部長、行財政改革担当部長、管理部長、学校教育部長、社会教育部長、政策室長、行財政改革室長、管理室長、学校教育室長、幼児教育担当次長、生涯学習室長、政策推進課長、政策推進担当課長、教育企画課長、政策推進課係長、教育企画課係長

### 4 内容

#### ■開会

#### ■中川市長 挨拶

皆さんこんにちは。本日は平成29年度第1回宝塚市総合教育会議に御参集いただきましてありがとうございます。この総合教育会議ですが、教育委員会と市長部局が地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、相互に連携して教育行政を推進していくために開催しております。

日ごろから本市では、教育委員会と市長部局の風通しがよく、情報を互いに共有するという事にこだわっておりますが、課題が山積している中で途中選挙があり、この会議の開催期間が少しあいてしまったことをお詫びしなければならないと思っております。これからもしっかりと連携し、課題解決に向けて力を合わせていただきたくお願い申し上げます。

本日、議題が二つございます。一つ目は全事務事業の見直しについて、そして平成30年度教育重点施策の展開についてです。国からの交付金等の大幅な減少から、本

市の財政も苦しい状況が続き、厳しさが増しており、今般作成しました財政見通しでは、今後5年間で約53億円の赤字が見込まれています。持続可能で健全な財政運営のために、全ての事務事業を見直していく必要がありますので、御議論をいただければと思います。

また、こうした財政状況ではありますが、平成30年度の予算編成も間もなく始まりますので、平成30年度以降の取り組みについても意見交換をしていただきたいと思います。二つとも、これからの宝塚市の教育を進めていく上での重要な事項です。宝塚市の子どもたちのためのより良い教育の実現に向けまして、活発な御意見を頂戴できればと考えております。よろしく願いいたします。

#### ■ 傍聴

この会議は原則公開とすることとしています。本日の議題には、非公開とするものはありません。本日の傍聴希望者はいらっしゃいますか。

○事務局 1名の傍聴希望者がいらっしゃいます。

○中川市長 わかりました。では、どうぞお入りください。

(傍聴者入室)

○中川市長 それでは、次第により会議を進めてまいります。

#### ■ 議事

##### 議題1 全事務事業見直しについて

(資料1・資料2に基づき、赤井行財政改革担当部長から説明)

○中川市長 ありがとうございます。説明が終わりましたので、意見交換をお願いしたいと思います。御質問や何か御意見ありましたら、挙手のうえ質問していただきたいと思います。いかがでしょうか。

○川名委員 今、御説明を受けた内容からすると、教育の分野でも削りなさいと

いうことでしょうか。

○事務局            削りなさいという話になるかとは思いますが、教育だけが例外ではありません。いずれの事業も一つ一つを見れば大事な事業だと思っていますので、今まで継続してきた事業を否定するものではありません。同じような事業をしている場合には事業の統廃合を行い、その過程の中で少しでもコストを落としていくという手法もあると思っています。最終的に予算を全て使い切るわけではなかったとしても、事業を一つにすることで中身を充実させ、また効率よく実施するという考え方もあります。色々な手法を考えて、工夫して、時代に合った、しかも費用対効果も考えた良い事業にしていくという観点を含め、見直しを行うという考え方です。歳入が小さくなっていますので、その規模で実施できるようにしなければ、今までと同じように事業実施することは厳しい財政状況になっています。

○中川市長            いかがでしょうか。篠部委員も先生をされていますが、どうでしょうか。市の財政とはまた違いますが。

○篠部委員            医療関係は高齢者が増えるため厳しくなると思います。特にこの5年先というのはかなり大変なことになると予測され、支出を適正化していくという話にばかりなりますが、歳入を何とか増やす手だてを考えなければならないと思います。単純に税金を上げれば良いというわけではなく、ふるさと納税みたいなことを積極的に行い、歳入が増えれば財政状況も少しましになるのではないかなと思います。

○事務局            我々としましても、色々な手法を使って歳入確保に取り組んでいるところです。先ほど篠部委員がおっしゃったとおり、ふるさと納税というのも各市ともいろいろな工夫によって歳入を伸ばしていますので、宝塚市もより一層頑張らなければならないと思っていますが、

確実性の部分で少し不安定なところがあります。事業の継続性といった観点からも、当然歳入を増やしていく努力は行っていくわけですが、歳入歳出のバランスをしっかりと見ながら取り組んでいきたいと考えております。

○篠部委員       最近市内で開業をされる先生が多いのですが、遠くにいると宝塚市が良いのではないかとということで宝塚市に来られる先生が多いようです。市の名前としてのブランド力があると思いますので、その辺をもう少しアピールしてはいかがでしょうか。イメージは決して悪くはないですから。

○中川市長       子どもの医療費も中学3年生まで無料化していますが、その施策も自治体によって全然違います。例えば、三田市は所得制限がありませんが宝塚市は所得制限がありますので、所得制限を無くして欲しいというお手紙等もよく頂戴します。無料化に関しては、就学前の自治体もありますし、そういうところでは県に継続的に要望しています。どこに暮らしても子どもの命に軽重はないと思いますが、小学6年から中学3年まで無料化を行ったときに、市の負担が5,000万ぐらいしか増えないだろうと予想していましたが、実際は1億5,000万ぐらい増えてしまいました。中学3年まで医療費が無料というのが一つの魅力になって暮らす方も結構いらっしやると思いますので、今さら小学校6年に戻すことはできません。子ども施策、教育施策のことなど、もっともっとやらなければならないことがあるのに、一方ではこのように本当にお金がないからということで、優先度などを考えていかなければならない非常に厳しい時代にあるということ踏まえたうえで、議論をしていただきたいなと思っております。

井上委員はいかがでしょうか。

○井上委員 私自身は、この度幼稚園の空調設備に係る設計委託料がついたという  
ことで非常に喜んでおります。園児たちは体力維持のためにグラ  
ウンドを走ったりしますので、今の気象状況ではすぐ汗だくになっ  
てしまいます。しかし、クーラーのかかっている部屋は遊戯室一つ  
しかありません。これをできたら、もうあと1クラスでも良い、2  
クラスでも良い、欲しいなということで要望しておりましたところ、  
委託料がついたということで、非常に喜んでおります。ありがとう  
ございます。

○中川市長 森委員はどうですか。

○森委員 宝塚の強みというか良さは、私は福祉と教育だと思っています。そ  
の福祉と教育の予算はこれ以上絶対に減らすことはできないなと思  
っていましたが、今の部長のお話の中で、事業の統廃合や、時代に  
あった事業見直しを行っていくという説明を聞き、削減といっても  
何もかも削られるという考えではなくて、プラス方向に何とか考え  
ていけたらいいなというふうに思いました。ほかの部局もきっとそ  
れぞれの要望があるかと思いますが、私たちが市外に行って宝塚の  
魅力は何ですかと聞かれたら、私は必ず教育と福祉ですと言います。  
ハード面ではなかなか見えませんが、ソフト面をすごく大切にしてい  
る、市民に優しい宝塚市に誇りを持ち自慢しておりますので、な  
るべくそのあたりは手厚く考えていただきたいと思っております。

○中川市長 他の委員の皆さんはもうよろしいですか。

○川名委員 お金は難しいですね。本当にどうしたら良いかと思いますが、い  
ま、医療費は中学生まで無料となっており、これを直ちにやめるこ  
とは難しいと思います。私は医療と福祉と教育が大事というのはそ

のとおりだと思いますが、一方で無料ということについても無条件に賛成できないところもあります。例えば、少し子どもの様子がおかしくなったときに、いろいろ周りの人に聞いたり、育児書を読んでお母さんやお父さんが自分で判断するというようなそういう家庭がなくなりつつあり、とりあえず病院に、医療機関に連れていくというような家庭が実際に多々あります。親が注意深く見守るといったようなプロセスも必要だと思っています。

だから、無料であれば良いかというところでもない。でも教育、福祉は手厚くあってほしいと思っていますが、どこかで切ってしまうのはすごく難しいと思います。その施策を考えるときに、本当にどれが一番市民にとって良いのか、市民の自主性や自分で考える力も奪わず、どういうふうにしてその政策をつくっていったら良いのかというのは、本当に大きな課題だと思っています。

お金がないということは、ある意味ではそういうことをしっかりと考えるチャンスのような気もしますし、見直すことをおっしゃったのは、多分漫然と続いてきているようなものもあるでしょうから、それを一つ一つ点検していくということは意味があるのかなと思います。これからの宝塚がどうあってほしいか、どうありたいかを考えるのと合わせて、見直しというのは意味があると思います。福祉とか教育はお金がかかりますから、それをどうするか。物を作るといった場合は分かりやすいですが、子どもの教育をしっかりとやるということになると成果も見えにくいですから、そこにたくさんのお金を注ぐということについてはいろいろ説明も要るかと思っていますし、もう一度私たちもしっかりと考えて、お金がなくても何か市民の力を借りながらできることはないか、もう少し活性化で

きないかなど、そういったことを考えるしかないのかなと思います。

○事務局

おっしゃっていただいたとおり、私どもの財源不足の対応策として、時代の中で市民と協働で一緒に行っていく取り組みもあると思っております。全てが行政サービスの中で経費をかけてやるというものではないと思っておりますし、いま一度事業を見直す中でこういったやり方ができるのかというのは、色々な手法があると思っております。今後さらに時代が進むにつれ、教育であれば教育の新たな取り組みも行っていかなければなりません、今行っているものに全部積み上げていくというのは、収入の面からも非常に難しくなります。教育だけではなく、福祉においても同じです。収入が増えるばかりであればそれは可能ですが、実際はそうではありませんので、財源不足になったから見直すではなくて、常日頃からニーズと状況を見極めながら適切に事業を実施していくべきだと思っております。ただ今回、大きく財源不足というものが見えてきましたので、事業として実施しているものに本当に無駄がないかを点検、見直しをするという方針を決定し、今後の宝塚市が財政面も含め事業を行うことができるように力を入れて取り組んでまいりたいと考えております。

○中川市長

財政の安定化とか行革とかと言われるときに、やはり昔から、学校給食を民間委託してもっと安上がりにとか、指定管理も直営でやるよりも民間に頼んだほうが質も上がり、経費も節減できるかもしれないと言われてきました。また議論いただきたいと思いますが、指定管理や民間委託の話となるといつもやり玉に上がるのが学校給食であり、議会などでもその御質問がとても多いです。教育も聖域ではないというところはあると思いますが、ここだけは人でないとだめだ、ここは直営でしっかりと、でもつぶさに見ていけば、こういうとこ

ろもはもっと工夫ができるのではないかとも思ったりもします。また川名さんがおっしゃったように、市民の力をもっとお借りして、市民との協働をどう進めていくかということが大事なことだと思いますし、宝塚は本当にたくさんの市民の方が力になってくださって、地域の見守りなどいろんなこともよくやっています。

では、議題があと二つありますので、財政見通しと事務事業の件に関しましては、この辺で議論を終了させていただいてよろしいでしょうか。

それでは次に移らせていただきます。次は、平成30年度教育重点施策の展開について、事務局から説明をお願いします。

## 議題2 平成30年度教育重点施策の展開について

(資料3に基づき、田上部長から説明)

○中川市長            ありがとうございます。今のことにつきまして、意見交換を行いたいと思います。何でも結構ですので、どうぞ御自由をお願いします。

○川名委員            質問よろしいですか。

○中川市長            はい、お願いします。

○川名委員            後期の計画の中身がようやく具体化していきますので、嬉しく思っていますが、子どもの表現力を高める一環で、ことばの祭典というものをやろうということになりました。具体的に今年の11月に市民ホールでとおっしゃいましたが、どのような形になるのでしょうか。

○事務局             今年度はまず、各校の取り組みの展示を行いたいというふうに思っ

ています。

○川名委員 展示というのは、何を展示するのですか。

○事務局 今年度予定しておりますのは、市民ホールで11月に10日間ほどパネル展示や司書の活動等図書館教育の取り組みのほか、ボランティアの連携等の仕組みについて展示していきたいと考えています。また、各小中学校の取り組みとして、読書活動の活性化のほか、図書委員会の活動や各教科で行われている言語活動、いわゆる新聞や教材の作品のようなものを各校から募集して、そういうものを展示していきたいと思っています。ただ先ほども司書の活動のことを申し上げましたが、日常ライブラリーなど、さまざまな司書の活動があり、そういうことも知ってもらいたいと思っていますので、図書館司書の活動の展示も考えております。そのほか、就学前の取り組みとして、幼稚園や保育所でも何か展示できたらと思っています。以上です。

○川名委員 今の話ですと、主に学校図書をめぐる活動を展示するということでしょうか。

○事務局 学校図書館の活動と、各校での言語活動、例えば国語の授業での俳句や感想文など、子どもたちが学びの中で作品として作ったものを展示していきたいと思っています。

○川名委員 今年はまだ余り時間がありませんが、この話をしたときは確か全国に発信するような大きなイベント、例えば手塚治虫さんゆかりの地ですから、彼の優れた漫画の感想文を全国から募集するといったような、いろいろな楽しい話が出ていましたよね。数人で良いので、プロジェクトチームのようなものを作って、どういうことを企画するかなど検討したほうが良くないでしょうか。

○事務局           まずは何か一つやっ払いこうということで、昨年度、本当に小規模でしたが、教育総合センターで国語の時間に取り組んだものの展示を行いました。それを今年度はこういう形で少し広げて、各学校にも教育委員会では言葉を大切にしているということをしちつと分かってもらうために何かしていこうということでこれを考えた次第であり、ここからどう展開していけるかということも今後検討したいと思っています。今、ご提案いただいたプロジェクトチームというのは、どのようなものをイメージされていますでしょうか。

○川名委員           成人式は成人の人たちが考えるというような感じで、子どもたちのチームで何か考えてもらうとか、もう少し工夫したほうが良いかと思ひます。

○森委員           今の説明を聞くと、学校に何か展示してもらおうと各学校の負担が大きくなり、出さなきゃいけないという思ひに駆られてしまひます。ことばの祭典というのはそうではなくて、もっと楽しい場としてあるべきだと思ひます。学校ではなく個人が応募できるというような仕組みを考えていくと、もっともつこの祭典という名にふさわしい内容になってくるのかなと思ひます。今年ハスタートラインで何かできるところからやっ払いこうというその説明はよく分かったのですが、今の具体的な説明ですと、学校がそれを出さなければならぬ、そのために準備をしていかなければならぬ、というようなことになると学校の負担がさらに大きくなると思ひますので、だからこそ、もっと楽しい企画をいろいろな市民から募っても良いと思ひます。そのようなこともまた是非考えていただければ有難ひです。

○事務局           今おっしやっ払いいただいたことを今後しっかりと考えていきたいと

思います。

○中川市長           いかがでしょう。

○井上委員           今の学校運営は、どうしても地域の協力が必要になってきています。ですから、学校においてはコミュニティの活用ということをも十分考えていただいた方がよいのではないかと思います。地域の早朝の見守りのほか、子どもの朝の食堂の設置を検討するなど、学校に何が必要かということをも積極的に学校に働きかけ、できることは地域の人たちがやるというような形になってきていますので、地域コミュニティの必要性については十分に考える必要があるのではないかと思います。

○中川市長           先ほどの川名さんと森さんが話された、ことばの祭典というのは、いつ行うのでしょうか。

○事務局             11月14日から22日の間に展示する予定です。

○中川市長           情報として皆さん知っていましたか。

○事務局             まだお示しできるものはありませんでした。

○中川市長           私も初めて耳にしました。差し出がましいですが、1回目はそのイメージが定着してしまいますので、すごく大切です。展示については、環境ポスター、1.17のポスター、人権標語集めなど、何かといろいろあって、それが多くの市民に知られているかといえば、そうでないのが現状です。子どもたちは一生懸命人権の作文を書き、入賞されたら人権の集まりのときに表彰される、またそこで読む、それが広く何かに掲載されると、頑張って書いた甲斐があったと思うものです。胸が熱くなるほど感動するような作文や人権、標語が数多くあります。それがきちんと市民に見えるようにしなければいけないと思います。ことばの祭典と言うならば、祭典にふさわし

いものを時間をかけてやるべきだと私はと思いますが、教育長の御意見はどうでしょうか。

○須貝教育長　ことばの祭典につきましては、重点施策の一つの中で、これを実施していこうという話は当然ありましたし、先ほど事務局から説明のあったように思い描いているところです。私自身、昨年、一昨年と小学校の音読大会を見学させていただき、子どもたちが言葉をととても丁寧に使っていたのを拝見し、非常に感動しました。是非、言葉に力点を置き、そのような趣旨を募った祭典になればというふうに思っています。今市長がおっしゃったように、第1回目は今後のイメージをつくることにもなりますので、非常に重要であると思います。先ほどいただいた意見を大事にしながら、丁寧に進めていかなければならないと思っています。

○中川市長　市民ホールで展示することは先生たちにも負担をかけますし、宝塚市は手塚治虫の街ですから、そういう祭典をやるのであれば、全国から1人でも多くの方に宝塚に来てもらうために例えば手塚作品感想コンクールなどを大々的にやるべきだと思います。伊丹市のことば蔵なんかは色々な市民が集まって議論し、市民がつくり上げて、まちの財産として行っています。碁コンGRESでも、宝塚市大使に榎原さんがいらしたというのはありますが、世界15箇所から多くの方が集まり4日間にわたって熱戦が繰り広げられ、碁の聖地となりました。そのような中で言葉を大事にするというのはよく分かりますが、祭典という名前までつけて、市民ホールの展示で終わらせるということに対して、どう思われますか。

○須貝教育長　毎年夏休みに生徒会の執行部の交流会がありますので、子どもから催しのあり方や形式も含めて募集するといったところが妥当かなと

思っています。全市的な催しということで生徒会の執行部に投げかけ、中学校12校の催しの集まりというイメージを持ってもらうことができれば良いのですが。

○森委員            掲示物というのは子どもたちからすれば本当に楽しくありません。先ほど、市長が言われた伊丹市のことば蔵はとても参考になると思います。伊丹市で本の帯を考えようということで広く市内外に募集したところ、宝塚市の先生たちもそれに飛びつき応募しようということで授業に取り入れ、宝塚市の子どもたちが一生懸命考えたものが入賞したということもありました。掲示物というものは作る労力がかかるうえ、お互いに共通する喜びを感じることができません。何か発表するというのであれば、言葉を介して子どもたちがそれを成果として感じられるようになるので、そのような計画を立てていただきたい。第1回目だから仕方がないと思いましたが、市長の言葉で第1回目が大切だとお聞きすると、私も本当にそうだなと思いましたので、もう少し具体的に色々なアイデアを考えていただけたらと思います。

○川名委員            無理に今年に行わなくても良いのではないですか。

○中川市長            面白くなく、負担を増やすだけであればやらなくて良いと思います。

○川名委員            自分の読んだ本を語り合うというような読書会だと決まった人数になりますが、自分のお薦めの本を熱く語って、そこに投票してもらうビブリオバトルのようなものだと、大勢の人でも盛り上がることのできるのではないのでしょうか。真面目な掲示ばかりではなく、みんなで盛り上がるようなイベント的なもの考えた方が良いのではないかと思います。もし、今年はとりあえず決めたのでやらないといけないからこのあたりからと思っておられるのであれば、いま

一度考え直していただき、あと1年かけて練っても良いのではないのでしょうか。

○中川市長 審査員は全員子どもにするとかも良いかもしれませんね。

○川名委員 そうですね。いろいろ子どもも加わったようなイベントを考えて、チームを作って、そこである程度アイデアを出し合って、市民や、あるいは全国からどなたでも参加できるような仕組みをもう少し考えていただければと思います。

○事務局 展示も、これをするために作りなさいという気はありません。授業の成果として、私たちがこんな学びでこんなことができたんだというものを持ち寄ってくださいねというようなイメージでいしましたが、今のお話を聞かせていただきまして、1回目だからこそ、こういう趣旨でこうやるんだというものをきちっと持ってすべきということにはよく分かりましたので、もう一度部内で練り直しまして、どういう形が一番祭典として相応しいのかをまた御提案させていただきたいと思います。ありがとうございます。

○中川市長 是非、子どもの意見を聞いてください。

他にはよろしいですか。実現しなければならない大変な重点施策は色々ありますが、特にこのあたりで御意見いただければ嬉しいのですが。

(2)の中学校の部活の活動推進の大会参加費や旅費などで、森さんから何か御意見ありませんか。

○森委員 この部分の費用が現状どの程度か分かりませんし、拡充といたら怒られるかもしれませんが、中学校の先生のクラブ指導の負担というのは時間的にも相当負荷が掛かっており、大変です。だからこそ先生の負担を軽減して、授業改善や子ども理解というようなところ

に時間を費やせるような環境を是非つくってあげていただきたいと思います。このあたりのことについて具体的にはどういうふうの実証するのかということ等を少しお伺いしたいなと思います。

○中川市長 わかりますか。

○事務局 現在、外部指導者を57名配置しています。外部指導者以外には、吹奏楽部でしたらOBが来て教えるというような人的なものになりますが、今、若手教員が増えるなかでその方が専門外の顧問をしなければならぬということも多々あります。その場合は、複数顧問制をとり、一人の負担にならないような形をとっていますが、指導する場合にはやはり専門的に指導できる者が必要ということで、外部指導者も必要であると思っていますし、そこは何とか配置をしていきたいというふうには考えています。先生方の負担を軽減して、少しでもゆとりを持ち、子どもと向き合う時間を確保していただくようには配慮していきたいと思っております。財源的なことを含め、指導者をどう見つけてくるのかということは議会でも問われており、我々も大きな課題であるということは十分認識しておりますので、しっかりと進めていきたいと考えております。

○中川市長 他にどうでしょうか。これに関しましては、また教育委員会の中でも御議論いただければと思いますので、よろしく願います。

大きな議題としてはこの二つが終わりましたが、その他で何かどうしてもということ、御意見などありましたらいかがでしょうか。

○井上委員 防犯カメラを設置されるということを聞いていますが、その設置場所については、通学路を重点的にしていただけるというわけにはいかないものでしょうか。

○中川市長 本日は担当課が来ておりませんので、申し訳ございませんが個別に

聞いてくださいますか。お願いします。

他にはございませんか。

すみません。ここではないかもしれませんが、この間メルビルの壮行会がありました。50人の希望者がいて、受け入れ先が12軒しかないということで12人に絞りましたね。結果的には38人の子どもが落ちてしまいました。本人は行きたいと思い、親も行かせたいと一生懸命思っている、昨年度の20人から急に8人も落ちることになり、落ちたんです。子どもがすごくがっかりしているという声をよく聞きます。いろいろ御意見はあるかと思いますが、国際的な交流の機会をつくっているのは宝塚市の一つの特色でもあるかなと思っています。だからこそ、受け入れを増やすための努力とか、何かそういうことはされたのでしょうか。先方に12人ですと言われて、ああそうですかで12人だけ決めていては、他の38人の子は何を基準に落とされたのかよく分かりません。この間も、平和関係で長崎、広島に行くということで表敬訪問に来てくれたすごく活発な高校生が、「私はメルビルに行きたかったのですが、理由はわかりませんが落ちました。とても辛かったです。」と言われました。なぜ選ばれなかったのかという理由がわからないのです。だんだん希望者が増えている中で受け入れ先は少なくなっていることは理解できますが、アップルクロスなどとそのあたりについて工夫をするための協議というものは行っているのか、少し教えていただけませんか。

○事務局

12名ということで、昨年度の夏にそういう話がありましたので、再三こちらからもアプローチし、何とか確保してくださいとお願いしました。受け入れだけでもたくさんの人数をとという話は常にやり

とりしておりました、実は2年前、向こうから来られないときでさえ14名を受け入れしていただいていたので、少しでも多くの人数をとということをお願いしてきましたが、4月になってやはり難しいとの回答があったと聞いています。アップルクロスも、これ以上受け入れを増やすということは難しい状況にあるかと思いますが、来られないとしても受け入れてもらうとか、高校の交流の数を増やすとか、そういう形できちっと対応していただければなという思いは持っております。

○中川市長           それで検討していただけるのですね。

○事務局             はい。

○中川市長           わかりました。何だか行けない子は本当に気の毒で。県も協力してくれるということですので、よろしくをお願いします。

○川名委員           私、昔、留学をめぐる問題取材したことがありまして、受け入れには両親が揃っているなどの条件がありますので、先進国で受け入れられるホストファミリーがすごく少ないのが現実です。近年では離婚が多く、ひとり親家庭が増えていますので、そういったところでなかなか留学生を預かることが難しくなっているようです。御両親がいるところから選んでいきますので、ホストファミリーを見つけることはすごく大変なことなのです。業者がすごくいいかげんにアメリカなどへ送り込み、行ってみたら学校までもすごく遠い農園で、労働力がわりに使われたとかで裁判になった事例もありますし、とにかく先進国で受け入れ先を見つけるということは、すごく難しくなっているのは事実です。だから、一つの高校とか一つの町だとそのような全体的な事情がありますので、何も落ちた方が悪くて落ちているわけではなくて、受け入れ先が無いので一定制限

せざるを得ないという実情が現実的にはあるということです。

○中川市長 両親が揃っていないといけないという条件もあるのですね。

○川名委員 高校生とかを留学させる場合はできればそういう家庭に送り込みたいわけですね。現実的にはひとり親家庭とか、シングルの人が増えていきますので、両親と子どもがいる、あるいは御夫婦だけでも良いのですが、そういった家庭を見つけることが難しくなっています。

○中川市長 わかりました。

○事務局 今言っていたことですが、しっかりと検討していきたいと思っています。

○中川市長 そうですね。現状は難しいようです。

○川名委員 双方でそういう御家庭でもオーケーにしましょうとか、そういう、話し合いがうまくできれば良いと思います。ひとり親家庭でも良いわけですが、例えばお父さんと息子がいるところに女子高校生は送れないとか、いろいろあるわけですよ。そうすると、受け入れてもらえる家庭を確保するのがすごく難しいのです。

○中川市長 そうですか。ありがとうございました。

では他になれば、そろそろ時間が近づいてまいりましたので、終了させていただきます。よろしいでしょうか。

それでは、総合教育会議をこれで終了させていただきます。本日はありがとうございました。お疲れ様でした。